



1 異学年交流：平和学習の折り鶴づくり

8月6日の平和学習では、田川人権センター所長を講師としてお招きし、穂波東校全児童生徒を対象に戦争や平和についてご講演をいただきました。当初は大アリーナでの講演を予定していましたが、今年の夏の猛暑を考慮し、7月の早い段階で大アリーナでの講演を止め、各教室でのテレビ放送の講演に切り替えました。このことは適切な対応であったと思います。この対応の中心となられた小中の人権・同和教育担当の先生方には感謝致します。

講演後は折り鶴づくりを行いました。折り鶴づくりに支援が必要と思われる小学部の低・中学年には6年生から9年生の児童生徒が各教室に出向いて、先生役となり、折り鶴づくりの指導・支援を行いました。



小学部児童に折り鶴づくりの指導・支援を行う中学部生徒

異学年交流は「1年生・6年生」「2年生・7年生」「3年生・8年生」「4年生・9年生」の組み合わせで行いました。異学年交流では、「取り扱う内容」によって適切に「学年の組み合わせ」を選定することが肝となります。今回は適切な組み合わせであったと感じました。

異学年交流を通して上級生は下級生の手本となり、下級生は上級生を手本とし、上級生は自尊感情の向上を下級生はモデル形成等を実現しながら、互いに高め合うことができます。これからも穂波東校小学部・中学部で協力し、多様な異学年交流を創造していきましょう。

コラム：ヒトは教えることに喜びを感じる！？

今回の異学年交流で印象的だったのは、教える側の上級生の生き生きとした姿でした。とても楽しそうに鶴の折り方を教えていました。筆者は8月4・5日、CoREFの研修会に参加させていただき、その中で、「ヒトは他者に自分の知っていることを教えることに喜びを感じる。」という意見を聞きました。この意見には続きがあり、「故に、エキスパート活動で資料の内容と既存の知識をしっかりと関連付け、『知っている状態』にすることが、その後の活動に大きく影響する。」という主張でした。異学年交流の上級生の姿から改めてその主張の正当性を感じました。

2 穂波東校環境づくり

「校内環境づくり」は、小中一貫校づくりの柱の一つです（「だより第2号」参照）。

8月6日の午後、穂波東校全職員により教材庫、教員室、印刷室等の整理・整頓を行いました。

これにより、より使い易く、機能的な穂波東校の校内環境になったと思います。これまで以上に、業務を効率よく進めることが可能になったと感じます。先生方、大変お疲れ様でした。



小学部・中学部の各先生方へ

今回の作業で、廃棄した備品があれば、必ず事務の先生へ報告して下さい。

また、備品を別の部屋に移動し、配置替えをした場合も、事務の先生へ報告して下さい。